



中村日向の逸事

洋学文庫
文庫8
A350



Blank page with a faint blue rectangular border and extremely faint, illegible text impressions.

Blank page with a faint blue rectangular border and extremely faint, illegible text impressions.



中村日向の逸事

管身お芳廿五年三月十九

一夕藤澤圖南君と飲み(君は中村氏の末家)
して日向の父義賢は君の家より入て中村家
を嗣ぎし人故血統上日向とは最も親密の関
係あるなり)談偶日向の事蹟も及ふ君と談る
所曩も本紙に記載せし所と少異同あり仍て
其大要を此に掲載す

壬辰十一月仲八

徹山公意氣剛邁人よ降る事を嫌ひ玉ふ一日某
諸侯よ招かれて其藩士の射術を演るを見ら

れしよ頗る能手多く某侯公よ向て大よ自負を
るの状ありしかば公心漸く平かある能はる後
容と考て曰く貴藩の士射よ巧みなるは真よ感
稱よ堪へたり然れども弊藩亦百發百中の士に
乏しからざる願くは高軒を枉げて一見を賜へと
日を約して帰郎せられ叔藩士中兼々射術を善
く是る輩を呼出し某侯と約束の事を告げ来る
何日某侯を招て射術を觀せしむべければ本藩
の耻辱とぢらざる様能く致すべき旨を命せら
れしよ平日は異朝の養由基我國の鎮西為朝よ

も讓るまどと高言吐散を若殿原も百發百中と
あつては少々覺束なき所なり万一射損を多よ
於ては藩の耻辱身の名折其場を去らば腹切て
申譯を多より外なき一大事なれば何れも尻込
して拂々敷御請申上げる者一人もなし公も一
時は御氣色を損じ御立腹ありしが尚篤と勘考
せられし上此事を申付べき者中村日向の外よ
はなしと思ひ定め玉ひ急ぎ日向を召されて命
を下さるるに日向一議はも及ばず謹て了承し
但數日の御暇を賜はりて練習したき旨を述べ

て屋敷に帰る、聽て其日よなりけれむ某侯は
約束通り来郎され扱日向をして射術を演せし
めたるは首尾能百發百中せしかば某侯の驚き
は申さよ及ばを徹山公の喜ひは譬ふるは物か
く種々の賞品を賜はりしと云ふ、此時迄日向は
格別射術の能手よもあらざりし故百發百中杯
と中々思ひも寄らぬ事なりしも君公の苦心し
玉ふを見るは忍びをして首尾能仕る旨御請を
申し上げしものより最初より一矢よても射損
じなば其場を去らむ腹切て御詫するのみとの

覚悟なりしと云ふ公が人を鑿るの明かなりし
は云ふ迄もなし日向が君の爲め生命を鴻毛よ
りも軽んずるは至ては古今多く得難きの忠臣
よて此精誠ありたればこそ百發百中の技を容
易く成し遂けて無上の名譽をも博したるなれ
誠よ千載の美談と謂ふべきなり

Vertical columns of handwritten Japanese text within a blue-lined border.

Blank page with faint rectangular outlines.

